Powered by Vivliostyle

文体操舵録



『文体の舵を取れ』練習問題の手帳

ayhy

2

この本は『文体の舵をとれ ル=グウィンの小説教室』(2021)の課題を一個人が実施したものをまとめた制作物です。版元とは一切の関係がありません。

この作品はフィクションです。作中に登場する人物、団体、場所、 出来事はすべて架空のものであり、実在する人物、場所、出来事と は一切の関係がありません。

視点と語りの声12	視点と語りの声11135	視点と語りの声10121	視点と語りの声9107	視点と語りの声893	視点と語りの声7	視点と語りの声6	視点と語りの声551	視点と語りの声4 37	視点と語りの声323	視点と語りの声2・・・・・・・・・・・・・・・・9	自分の文のひびき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		目次	
							視点と語りの声20・・・・・・・・・・・・??	視点と語りの声19 ??	視点と語りの声18233	視点と語りの声17	視点と語りの声16205	視点と語りの声15・・・・・・・・・・・・・・!9!	視点と語りの声14	視点と語りの声13 163

文体操舵録

自分の文のひびき

書かれた文に意図を説明するのは野暮と言われて

の場合、本文が始まる前に書き手が意図を説明する紙 ことをセットとした合評会の設計もあります 🗓 。そ 解説のように作者が予め作品と合わせて解説を出す いますが、ワークショップの本によっては美術展示の

になります。本文の後に置く場合は合評へのレスポン の意図が達成されたかという観点で突っ込んだ合評 面を設ければ、参加者は予断をもって文章を読み、そ 読み手への答え合わせになるでしょうか。

です。 workshop" (F. R. Chavez, 2021)など 三"The anti-racist writing workshop the anti-racist writing

探りで何も考える余裕がなかったのが正直なところ

章の第一問、

第二問とやっている間はとにかく手

問一1

に、金属体の骨格を再利用した幌馬車は振動を伝えやすい。[2]キャンバス地と木造の骨組みを使った旧大陸の幌馬車以上 じゃないんだけど。取り消し線を沢山引きながら、 動かないくらいだ。遠ざかっているはずなのに、 かぎりは、本当のことはすぐわかるけど。起きなかっ たいにぶつけた日記と、市長の手元のレコードがある ているのかも。鞄に詰まった黒革の、苛立ちを毎日み んとか「いい思い出になった」って話せる台本を作っ っている。どう考えても、何かを書くのに向いた環境 鞄を開けて、こうやって新しいノートを開く羽目にな さくならない。だから目を逸らすように下を向いて、 ひっかかったままの焦げた気球がいつになっても小 幌馬車がガンガン跳ねても22、 なかったって思い知らされる。胃が重い。重すぎて たことを書く気はない。ただ何もかもが失敗した訳じ 立ち去るころになって、あの子に大したことができ 胃だけは同じ位置から

けでもないだろう? ないし、日記だって、 起きたこと全部を書いている

ゎ

話じゃなかったとも思うんだ。火トカゲのマーサが始 めて熱気球を打ち上げたときのことは。 気持ち。でも、多分、視点を変えれば、そんなに悪い もっと上手くやれたはずだった、というのは正直な

る。

問二 1

龍紗から水が抜け落ちては、海面から躍り出る。 全身は 濡らし伝いながら海面へと戻った。跳ねた白蛟を空気 う弧になる。 を蹴れば、 水面を叩いては緩んで広がった。ふたたび白蛟が床板 支えない。 蛟の子は飛び上がり、沈みこんでは床板を蹴り、 への繋ぎ橋はまだ、 跳ねとんだ下肢は陽ざしの下、 床板は白蛟のを強かに打ち付けたが、閉 龍紗が吐き出した水は、こんどは橋桁を 全身は届かなかった。上体の 上り坂のままである。 膚をぺたりと取り囲み、 床板へ向か

> 珊瑚の浮き上がるような赤とも黄とも緑ともつかない。 側から、 れば、 空気の中で育つ藻と珊瑚が隣島の殻を覆い、 濃淡を認めるだろう。 空気に招かれて浮き上がる。がらんどうの島を見上げ ては新しい色を得る。ひとたびうつろになれば、 隣島への道を渡る。その内側は、まだ空洞のはずであ 痛みによろめき、 じた龍紗が下肢を保護していた。それでも白蛟の子は けていく紺青でもなく、 中身は白蛟たちの島に吐き出されて、混ざりあっ 死んだ珊瑚も同然に色あせていた。 坂を登り切って見下ろすなら、白と灰でない まろびながらも肢を整えては橋の上、 水面近くの白藍でも、深みの溶 水の纏う色ではない。 いま空気の 白蛟が見 生きた

文体操舵記録

はずである。 隣島に中身が戻り、

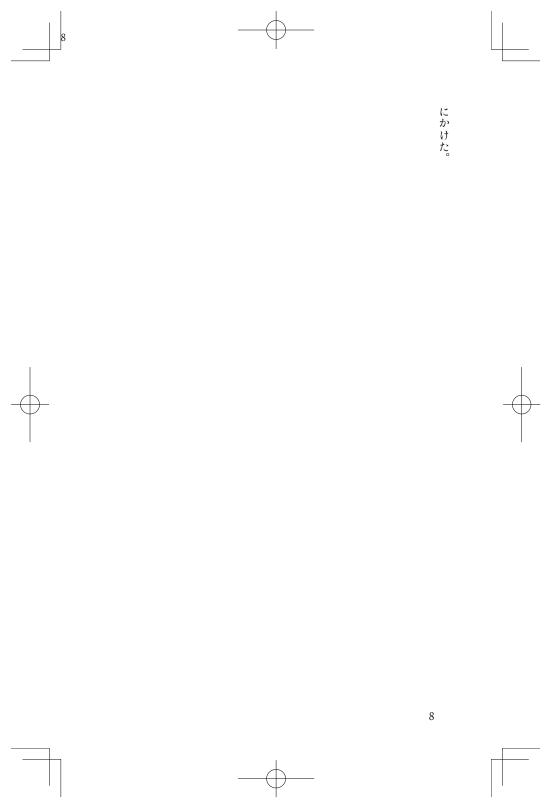
白蛟の、

たことのない色と形で手招きするように揺れていた。

橋が下り坂になるのはずっと先の ましてや子ひとりの重さでは沈

むまい。

白蛟は意を決すると、肢を揺らして殻のふち



視点と語りの声 2

問一 2 a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も

問一 2 a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 啓が横に一歩踏み出して列からず

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

啓は駆けだしていた。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

での期間限定だけど。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

問二 2 a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがいります。 かいり メートルに設置された軸受けで水平に保持され 対象が動いてくるのを

イクルキャプチャ®は、

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

大縄跳びに近い。 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 何事もない顔をして回転

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 安全性に懸念を示す親や、 怖がってジャン

文体操舵記録 11

った異音もなく、 先週交換したばかりのアーチ部は、 いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。 未知の情報を読者に提示することを主目 傍観型の語り手

問三 2 a

日ぶり十六件目。

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。 んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 背中を椅子越しにリズミカ 意を決して近づいた。こ 何が気に障ったのか、

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

同シフトの

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え 今子供 着陸時

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 近づいてくる強 面の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし アミュー つまり私に ズ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

女の子が倒れていた。

反射的に支給のレシーバーに手

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四四 2 a 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

文体操舵記録 13

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

ります」

唐木田が振り返ると、

機材の跡の染みから目線を上

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。やナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのような事られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのおの導入事例としてカタログには載っているが、それ

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事後が

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 2b 三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅していきへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。なけアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそバリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそバリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそがと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、終にはまだ信じられない。

15 文体操舵記録

けるのを見た。 な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

して向こう側を見ようとする。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

問一 2b 三人称限定②

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばれると、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の対象があった。

考える。 バリアみたいだ。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 装置が遮られずに見える。

啓は駆けだしていた。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> サイクル キャプチャ©のアーチが回っている。 問二 2b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になりルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づく人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停くができない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと見います。ラ矢の指幸を言えて持元でそことを言し

問三 2b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。この世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシートを蹴りつけられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵したものと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし保安員に彼らを追い出すような権限はない。

一緒に歩いていた。

一緒に歩いていた。

無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

近づいてくる強面

一の制服を着た保安員、つまり私に

19 文体操舵記録

エントランスは殺風景で、 問四 2 b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

虹をくぐった先の魔法の国、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

だ大人の子供のスキャンし、 その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 ャナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そう

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

エントランスは殺風景で、

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ それこそが、 撤去された機材の跡が黒 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 エントラ 応答

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

回転体に人間を接触させ

21

の事例が念頭にありました。

いた。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して

文体操舵記録

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 3

問一 3 a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

◆ 問一 3 a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずも戸強さがいた。単裏からで下

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は、助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、

啓は駆けだしていた。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

問二 3 a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがいります。 かいり メートルに設置された軸受けで水平に保持され イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

大縄跳びに近い。 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

80

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 っている。 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を 、サイ

25

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

◆のた異音もなく、いまのところ安定していた。

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

近づいてくる強

面

の制服を着た保安員、

つまり私に

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

◆ 問三 3a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の外と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らした。安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らした。安堵した親が子供に声を見上げてくる。アミューズメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに関が強張る。アミューズメントパークに入れずに関いた。同シフトのメントパークに入れずに関いた。同シフトのメントパークに入れては今日では、

りな旧式スキャナの電源を入れる。

側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

女の子が倒れていた。

反射的に支給のレシーバーに手

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

問 四四 3 a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 しかし時折、 踏み込

おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は 勢いあまった子供達

27

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。やナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ糖を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

れた線を隠しきれてはいない。

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのよりで、運用される前の状態であった。当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させん。

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 3b 三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対ることは、悠にはまだ信じられない。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し

にマットレスの感触。 て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた で、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのにマットレスの感触。

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの?していられるの?とも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もど、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

して向こう側を見ようとする。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

問一 3b 三人称限定②

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばを変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。でも一一啓が見たことのある本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 啓は

考える。

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 3b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 サイクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

文体操舵記録

31

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやることクルキャプチャ⑥へ飛び込む親子連れも、年齢制限をされておりの子供たちも、何事もない顔をして回転超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転を入れます。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を

っている。

は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン

問三 3b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんど。した泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした立き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした立き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした立き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした立き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした立き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした立き声の発生源に、意を決して近さいます。

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

一緒に歩いていた。

一緒に歩いていた。

無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、つまり私に

33 文体操舵記録

エントランスは殺風景で、 問四 3 b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の それは

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を

ャナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そう

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ エントランスは殺風景で、 それこそが、 撤去された機材の跡が黒 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

いた。

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触させ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 4

問 一 4a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。

通り抜けた。

みんなそうしてるみたいに。

37

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

◆ 問一 4a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

啓は駆けだしていた。

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

問二 4a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転4~48の範囲で回転している。 № 5 メートルに設置された軸受けで水平に保持された 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるの を

大縄跳びに近い。 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を 、サイ

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

→ たりをこえを気してした

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 4a 傍観型の語り手 ・ 問三 4a 傍観型の語り手 ・ と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 ・ と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 ・ とのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

◆ 問三 4a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

威圧感を覚えたのか、 のだ。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 近づいてくる強面の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 子供は泣き腫らし アミュー 同シフトの つまり私に ズ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

エントランスは殺風景で、 問 . 四 4 a 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

れた線を隠しきれてはいない。

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのよりでに運用される前の状態であった。当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。髙橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証

余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故

の事例が念頭にありました。

回転体に人間を接触させ

て歩いていく。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 現実の3Dスキャン技術はか

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 4b 三人称限定①

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

駆けていった。 ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

やだと泣き叫び、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 挙句両親もスタッフも手を上げて、 絶対

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 弟の手前でさえなければ。

っちへ行きたかった。

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの?していられるの?とも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もど、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 4b 三人称限定②

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、難裏からで描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きを変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、朝に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、朝に戻った。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

して向こう側を見ようとする。

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 考える。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 啓は

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

遮るシャツの背中が減る。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 啓は駆けだしていた。 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と 装置が遮られずに見える。

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

での期間限定だけど。

キャプチャ©のアーチが回っている。 問二 4b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 サイクル サイクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

> 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

問三 4b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトの て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、つまり私に

エントランスは殺風景で、 問四 4b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

く球の中央を通る。

しかし時折、

勢いあまった子供達

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。それは 霧を抜けた先の不思議の

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を

飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー 時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

れた線を隠しきれてはいない。「おざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝しております」

場所を選んだ理由だった。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

の事例が念頭にありました。

回転体に人間を接触させ

49

いた。

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 5

◆ 問一 5a 三人称限定①

いく。

刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。とは口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

にマットレスの感触。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

◆ 問一 5 a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも ―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助力を一回転して球をつくる。

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

80

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

問二 5 a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがある。 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

イクルキャプチャ®は、

対象が動いてくるのを

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 大縄跳びに近い。 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 《再構成圏内》 図式としては 一定

> クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を

っている。

った異音もなく、 先週交換したばかりのアーチ部は、 いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ 問三 5 a 未知の情報を読者に提示することを主目 傍観型の語り手

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 機内のことを思い起こさせる。 んとした泣き声の発生源に、 日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 意を決して近づいた。こ 何が気に障ったのか、

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ

トを蹴りつけ続け

背中を椅子越しにリズミカ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え 今子供 着陸時

威圧感を覚えたのか、 予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 近づいてくる強面の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 アミュー つまり私に ヹ

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 子供は泣き腫らし そちらの大掛か 同シフトの

りな旧式スキャナの電源を入れる。

側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

女の子が倒れていた。

反射的に支給のレシーバーに手

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四四 5 a 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。やナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのような事られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

れた線を隠しきれてはいない。

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。髙橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証

即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 現実の3Dスキャン技術はか 回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

問一 5b 三人称限定①

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

駆けていった。 ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

て歩いていく。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 挙句両親もスタッフも手を上げて、 絶対

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 文体操舵記録

弟の手前でさえなければ。

っちへ行きたかった。

にマットレスの感触。 大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた。考える暇もなく、息を止めて、駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なる音がずっと右から下から左から―――そして膝に足のを取けるときのい五歩、カの背丈ならだいたて、

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、ものり抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

問一 5b 三人称限定②

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からさの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からでも ―― 啓が見 たことのある本物のジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きを変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。でも ―― 啓が見 たことのある本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、刺にフレーを表している。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

知っていた。

仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

して向こう側を見ようとする。

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で与ンポリンのばねで高くジャンブする。浮遊感と

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 ◆ 問二 5b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転8~48の範囲で回転している。 かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人

59

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になりルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 ・にばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 が、安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン できない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を ができない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を ができない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を

J とまた、こまり見ほとりとようのは骨段のでは、このは骨段のでは取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とがギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

問三 5b 傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 ―― 背中を椅子越しにリズミカ 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 今子供

> りな旧式スキャナの電源を入れる。 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトの て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる そちらの大掛か

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、つまり私に

エントランスは殺風景で、 問四 5b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

ャナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そう

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチザんだ枠となって残っている。アトラクションではなずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

れた線を隠しきれてはいない。「おざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝しております」

場所を選んだ理由だった。

「当日の様子を話していただけますか?」「当日の様子を話していただけますか?」「当日の様子を話していたが部屋を外しているときの出来事だったのといったがが部屋を外しているときの出来事だった。といったがが部屋を外しているときの出来事だった。といったがが部屋を外しているときの出来事だった。といったがが部屋を外しているときの出来事だった。といったがが部屋を外しているときの出来事だった。

余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

の事例が念頭にありました。

回転体に人間を接触させ

いた。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた

言を引き出すことができなければ、

あと数年はもつれ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 6

問一 6 a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

◆ 問一 6a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずも戸強さがいた。単裏からで下

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

啓は駆けだしていた。

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

80

問二 6a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転4~48の範囲で回転している。 № 5 メートルに設置された軸受けで水平に保持された 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 大縄跳びに近い。 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 《再構成圏内》 図式としては 一定

> クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を

っている。

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

・ た異音もなく いまのとこれ 写定してい

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 6a 傍観型の語り手を思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

◆ 問三 6a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしくないだろう。とはいえ、私のような雇われいの。とはいたないだろう。とはいえ、私のような雇われて安員に彼らを追い出すような権限はない。
少し時間がかかりますが、という前置きして告げる
が、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしくし眼間カカカりますか。という前置きして生じる

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

問 四 . 6 a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

や

銀の半円リングが回っている。

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

アで保安員を配置するよう記されている。

られる。保安員が指導されているのは、そのような事

ります」

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのよりで、運用される前の状態であった。当時の面影は

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。髙橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証

即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 の事例が念頭にありました。 なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 現実の3Dスキャン技術はか 回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

っちへ行きたかった。

弟の手前でさえなければ。

問一 6b 三人称限定①

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

駆けていった。 ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

やだと泣き叫び、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 挙句両親もスタッフも手を上げて、 絶対

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 文体操舵記録

71

にマットレスの感触。 て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた で、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのにマットレスの感触。

けるのを見た。
る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの?していられるの?とも、内側にずらりと並んだレンズ――あんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像でも内側から見えた半円リングの頑丈そうしてるみたいに。

して向こう側を見ようとする。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

問一 6b 三人称限定②

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば起力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずも力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずを変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。である時間にあいるが近れのである本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

バリアみたいだ。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 自分の番が来たときのことを、 啓は

考える。

ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 6b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクルキャプチャ©は、 内部へ跳びこむことを要求する。図式としては 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

> うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。未知の情報を読者に提示することを主目

整理がかなり大変だと思いました。

問三 6b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる そちらの大掛か 同シフトの

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、

つまり私に アミューズ

エントランスは殺風景で、 問四 6b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ 銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

く球の中央を通る。

しかし時折、

勢いあまった子供達

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

VRアミューズメント施設では実際に体を

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 踏み込

み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ ャナを怖がる子供、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 うまく飛べそうにない大人、そう

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

れた線を隠しきれてはいない。「おざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝しております」

場所を選んだ理由だった。

といこ。 省寺)とり、長ぎはステアー シースンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当―無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致してといったかが部屋を外しているときの出来事だった。まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をあざる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めぐる訴訟は続いている。といったの場での第一応答といったがが部屋を外しているときの出来事だった。といったの場ででは、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して

•

いた。

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

77

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 7

問一 7 a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

◆ 問一 7a 三人称限定②

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きど、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このも力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずも対強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

での期間限定だけど。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助走をつけてシャンフすると「半円のフレームカま

啓は駆けだしていた。遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

問二 7 a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがある。 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 対象が動いてくるのを

イクルキャプチャ®は、

大縄跳びに近い。 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 っている。 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を

文体操舵記録

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

◆ ・ かまのところ 安定していた

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 7a 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

トを蹴りつけ続け

背中を椅子越しにリズミカ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

に、で替しこ見がさせて言さいけ、こせは立ち重して、で替しこ見がかかりますが、という前置きして告げる外ントパークに入れずに門前払いされては今日一日の外ントパークに入れずに門前払いされては今日一日の外ントパークに入れずに門前払いされては今日一日の外に感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ域圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ域圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズが、で替しこ見がない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

一緒に歩いていた。

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく 問 四四 7 a 潜入型の語り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 踏み込

く球の中央を通る。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

文体操舵記録

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。やナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのような事られる。保安員が指導されているのは、そのような事

れた線を隠しきれてはいない。

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのお所を選んだ理由だった。

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 7b 三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

ることは、悠にはまだ信じられない。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、必と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりとがんだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 7b 三人称限定②

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 でも —— 啓が見たことのある本物のジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 でも —— 啓が見たことのある本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で 描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

して向こう側を見ようとする。

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

バリアみたいだ。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 自分の番が来たときのことを、 啓は

考える。

ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

遮るシャツの背中が減る。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 装置が遮られずに見える。

啓は駆けだしていた。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 7b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 カメラ映像から三次元形状を再構成する。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

文体操舵記録

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイクルキャプチャ®へ飛び込む親子連れも、年齢制限をする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

88

問三7b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃのど。

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

一緒に歩いていた。

一緒に歩いていた。
無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って
無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って
無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

日の

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、つまり私に

エントランスは殺風景で、 問四 7b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。それは

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 ャナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そう

られる。保安員が指導されているのは、そのような事

アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ それこそが、 撤去された機材の跡が黒 唐木田がこの 当時の面影は

エントランスは殺風景で、

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

> 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

いた。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触させ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 8

問一 8 a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 けるのを見た。 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も

問一 8 a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

して向こう側を見ようとする。 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

問二 8 a 遠隔型の語り手 のアーチが回っている。

サイクル

キャプチャ®

地球

毎分回転4~48の範囲で回転している。 № 5 メートルに設置された軸受けで水平に保持された 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるの を

大縄跳びに近い。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

80

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を

95

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

◆ へた異音もなく、いまのところ安定していた。

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

のだ。

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

◆ 問三 8a 傍観型の語り手 を思います。未知の情報を読者に提示することを主目 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ うのが間一段階では取りにくい(問二でわかった)と

◆ 問三 8a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の外ントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らした。同シフトのメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日では、

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

一緒に歩いていた。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四四 8 a 潜入型の語り手

出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

97

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ

アで保安員を配置するよう記されている。

態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

ります」

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのおい。当時の面影は

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事後がですが、書いているときは過去の回転ドア事故

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 8b 三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそがだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、 無事に。みんなそうしてるみたいに。

知っていた。

仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

して向こう側を見ようとする。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

問一 8b 三人称限定②

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、 啓が横に一歩踏み出して列からず 靴裏からで

100

バリアみたいだ。 考える。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 装置が遮られずに見える。

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 サイクル キャプチャ©のアーチが回っている。 問二 8b 遠隔型の語り手

サ ·イクルキャプチャ©は、 内部へ跳びこむことを要求する。図式としては 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏 内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停

整理がかなり大変だと思いました。

は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン

プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあっている。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

問三 8b 傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

> 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛か 同シフトの

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ 威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一 近づいてくる強面 の制服を着た保安員、 つまり私に アミューズ 日の

> て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

が伸びるが、 りな旧式スキャナの電源を入れる。 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 救護センターへのホットラインを繋ぐ前 マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく 文体操舵記録

エントランスは殺風景で、 間 四 . 8b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ 銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、

国 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の

だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

に送る。

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ ャナを怖がる子供、 時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 うまく飛べそうにない大人、そう

アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな それこそが、 撤去された機材の跡が黒 唐木田がこの 当時の面影は

エントランスは殺風景で、

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

> かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故

の事例が念頭にありました。

回転体に人間を接触させ

いた。

文体操舵記録 105

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 9

問一 9a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し ひゅんと風を切 絶対

る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 けるのを見た。 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

◆ 問一9a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

家疾の一団が引から抜けて引が一気に進せ。見界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま さんれる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま 啓は駆けだしていた。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で というに しょう に進む。視界を というれる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

サイクル キャプチャ® 問二 9a 遠隔型の語り手 のアーチが回っている。

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがある。 イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

地球

大縄跳びに近い。 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 っている。 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を

った異音もなく、 先週交換したばかりのアーチ部は、 いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

のだ。

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と と思います。 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ 問三 9a 未知の情報を読者に提示することを主目 傍観型の語り手

日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

意を決して近づいた。こ

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。 んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 背中を椅子越しにリズミカ 何が気に障ったのか、

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え 今子供 着陸時

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 近づいてくる強 面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし 同シフトの アミュー つまり私に ズ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

問 四 . 9a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。キナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

られる。

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝しておは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はすの導入事例としてカタログには載っているが、それ

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。をいったが部屋を外しているが、事故が起きた時の第一応答いていた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当といったが部屋を外していただけますか?」「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事級が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 9b 三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、とく大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対のことは、悠にはまだ信じられない。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの?していられるの?とも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 9b 三人称限定②

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばれると、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をでありと回る銀色の残像がのぞく。このでも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

して向こう側を見ようとする。

バリアみたいだ。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 自分の番が来たときのことを、 啓は

考える。

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> サイクル キャプチャ©のアーチが回っている。 問二 9b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サ ·イクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏 内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 カメラ映像から三次元形状を再構成する。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

ト奄没こおいてよまぎ込頁の没備と匕している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ

っている。低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をぱ少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

116

問三 9b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 同シフトの

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく 文体操舵記録

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一

日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、

つまり私に アミューズ

117

問四 9b

エントランスは殺風景で、 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

ューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

国

だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

に送る。

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー 時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 ャナを怖がる子供、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 うまく飛べそうにない大人、そう しかし時折、 勢いあまった子供達

アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ それこそが、 撤去された機材の跡が黒 唐木田がこの 当時の面影は

エントランスは殺風景で、

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 エントラ

応答

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ

いた。

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触させ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 10

問一 10a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

けるのを見た。

通り抜けた。

る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 10a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずも戸壁には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

での期間限定だけど。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で啓は駆けだしていた。

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 10a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがいります。 かいり メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

大縄跳びに近い。 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 年齢制限を 、サイ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を 怖がってジャン

った異音もなく、 先週交換したばかりのアーチ部は、 いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

のだ。

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。 未知の情報を読者に提示することを主目 丰

日ぶり十六件目。 問三 10a 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 傍観型の語り

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。 んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 背中を椅子越しにリズミカ 意を決して近づいた。こ 何が気に障ったのか、

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か 同シフトの

ないドアに向かって親子連れを先導した。

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え 今子供 着陸時

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 近づいてくる強 面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし アミュー つまり私に ズ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

問四 10a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

られる。

保安員が指導されているのは、そのような事

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

アで保安員を配置するよう記されている。

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当りに運用される前の状態であった。当時の面影は

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事級が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 10b

三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

て歩いていく。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対ることは、悠にはまだ信じられない。

127 文体操舵記録

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、 無事に。みんなそうしてるみたいに。

三人称限

知っていた。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 問一 10b 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば (定2

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

して向こう側を見ようとする。

バリアみたいだ。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 自分の番が来たときのことを、 啓は

考える。

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 10b 遠隔型の語 [り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 サイクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏 内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。をしたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転を、

先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあっている。
先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあっている。

った異音もなく、いまのところ安定していた。

と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが間一段階では取りにくい(間二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の

整理がかなり大変だと思いました。

問三 10b 傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる そちらの大掛か 同シフトの

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、つまり私に

エントランスは殺風景で、 問四 10b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

に送る。 だ大人の子供のスキャンし、 虹をくぐった先の魔法の国、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界 霧を抜けた先の不思議の

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

VRアミューズメント施設では実際に体を

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

国

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 ャナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そう

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

れた線を隠しきれてはいない。「時木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

場所を選んだ理由だった。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

•

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

回転体に人間を接触させ

の事例が念頭にありました。

いた。

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 11

問一 11a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

けるのを見た。

通り抜けた。

る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。 文体操舵記録

135

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

. 問一 11a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

◆ 問二11a 遠隔型の語り手て、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。

毎分回転84~8の範囲で回転している。 像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サ

イクルキャプチャ®は、

対象が動いてくるのを

超えたばかりの子供たちも、

何事もない顔をして回転

部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、カメラ映像から三次元形状を再構成する。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやることく人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

っている。 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

った異音もなく、 先週交換したばかりのアーチ部は、 いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

うのが問一段階では取りにくい

(問二でわかった)と

のだ。

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ 未知の情報を読者に提示することを主目

日ぶり十六件目。 問三 11a 傍観型の語り

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

丰

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、 その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。 んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 背中を椅子越しにリズミカ 意を決して近づいた。こ 何が気に障ったのか、 いつかの飛行

> をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え 着陸時 今子供

威圧感を覚えたのか、 予定もたたないだろう。 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 近づいてくる強 面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ アミュー つまり私に ズ

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし そちらの大掛か 同シフトの

りな旧式スキャナの電源を入れる。

側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

女の子が倒れていた。

反射的に支給のレシーバーに手

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

問四 . 11a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

銀の半円リングが回っている。

や く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 それは

虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

国

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当りに運用される前の状態であった。当時の面影は

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事級が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 11b

三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

ることは、悠にはまだ信じられない。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、絶対と立き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、 無事に。みんなそうしてるみたいに。

して向こう側を見ようとする。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

問一 11b 三人称限

知っていた。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず (定2

142

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。といいでいいでいかでありますに見える。といいではないではでいた。といいでは、これが、これでは、できないでは、これでは、といいでは、これで

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。◆ 問二 11b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転84~48の範囲で回転している。RPM

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

と最終しる。トーフントでポーマのは《月冓戊州丙》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人8個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイのルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をは入れまれていての子供たちも、何事もない顔をして回転は、大間を検知し静止するよう設定されており、緊急停く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停く人間を検知し静止するよう設定されている。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイトを表している。

っている。 のできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン はがないの本来の使用者である常駐保安員のやること く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の

と思います。未知の情報を読者に提示することを主目

整理がかなり大変だと思いました。

144

傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 ―― 背中を椅子越しにリズミカ 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 今子供

> りな旧式スキャナの電源を入れる。 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトの て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる そちらの大掛か

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、つまり私に

エントランスは 問四 11b 殺風景で、 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

く球の中央を通る。

しかし時折、

勢いあまった子供達

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

国 に送る。 だ大人の子供のスキャンし、 虹をくぐった先の魔法の国、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界 霧を抜けた先の不思議の

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

VRアミューズメント施設では実際に体を

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 踏み込

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー 時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ ャナを怖がる子供、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 うまく飛べそうにない大人、そう

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はすのだ、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチンスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

れた線を隠しきれてはいない。「時木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

場所を選んだ理由だった。

4割り当てられているが、事女が起きに寺の第一心答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致してといったかが部屋を外しているときの出来事だった。まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をあぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めでる訴訟は続いているが、事故が起きた時の第一応答み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して

•

いた。

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 12

問一 12a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

けるのを見た。

通り抜けた。

る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 12a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと『背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はおりを一回転して球をつくる。 4円のフレーユカラ

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 12a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがいります。 かいり メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 対象が動いてくるのを

イクルキャプチャ®は、

大縄跳びに近い。 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

80

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 っている。 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

◆ 問三 12a 傍観型の語り手 ・ 問三 12a 傍観型の語り手 ・ のが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と ・ と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 ・ と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 ・ と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 ・ という評をわりといただいた実作で、それはその通りだ ・ という評を力りといるだめ回ってる機材が何か、というのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

◆ 問三 12a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛かった。同シフトの

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

のだ。

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 近づいてくる強 面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし アミュー つまり私に ズ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

一緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

ない。

問四

. 12a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 踏み込

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ しかし、 彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 ャナを怖がる子供、 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

アで保安員を配置するよう記されている。

ニュアルでは

別室扱いの客が出た時のためにペ

ントランスは

殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

うまく飛べそうにない大人、そう

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

> ります」 場所を選んだ理由だった。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

当事者の記憶の中にある。

それこそが、

唐木田がこの 当時の面影は

は実際に運用される前の状態であった。

ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 れた線を隠しきれてはいない。 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、

み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 エントラ

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 応答

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

問一 12b 三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

ることは、悠にはまだ信じられない。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。がリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそがリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそさっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

問一 12b 三人称限

知っていた。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず (定2

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

して向こう側を見ようとする。

バリアみたいだ。 考える。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> サイクル キャプチャ©のアーチが回っている。 問二 12b 遠隔型の語 [り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏 内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 カメラ映像から三次元形状を再構成する。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

158

問三 12b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトの て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

日の

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、つまり私に

エントランスは 問四 12b 殺風景で、 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

虹をくぐった先の魔法の国、

霧を抜けた先の不思議の

国 に送る。 だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事

ャナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そう

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

れた線を隠しきれてはいない。「時木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

場所を選んだ理由だった。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故▼

の事例が念頭にありました。

回転体に人間を接触させ

いた。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 13

◆ 問一 13a 三人称限定①

いく。
刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいる音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続縁と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 13a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で啓は駆けだしていた。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 13a 遠隔型の語り手

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがいります。 かいり メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 サイクル キャプチャ® のアーチが回っている。 対象が動いてくるのを 地球

イクルキャプチャ®は、

大縄跳びに近い。 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 何事もない顔をして回転 年齢制限を 、サイ

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること プできない子供たち、 は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 安全性に懸念を示す親や、 跳びこむ動きが困難な利用者を 怖がってジャン

った異音もなく、 先週交換したばかりのアーチ部は、 いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

うのが問一段階では取りにくい

(問二でわかった)と

のだ。

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、 と思います。 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ 未知の情報を読者に提示することを主目 子供の視点を通して伝えるのは情報の 丰

問三 13a 傍観型の語り

日ぶり十六件目。

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、 その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。 んとした泣き声の発生源に、 意を決して近づいた。こ 何が気に障ったのか、 いつかの飛行

トを蹴りつけ続け

背中を椅子越しにリズミカ

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え 着陸時 今子供

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 近づいてくる強 面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし 同シフトの アミュー つまり私に 日の ズ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら に女の子は立ち上がり、 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

国

一緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

エントランスは殺風景で、 問四 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。

ルな電飾のような愛嬌はない。

しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

や

虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

ります」

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのおの導入事例としてカタログには載っているが、それ

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

•

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

回転体に人間を接触させ

の事例が念頭にありました。

余談ですが、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという◆ 問一 13b 三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

ることは、悠にはまだ信じられない。

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、

三人称限

知っていた。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 問一 13b 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば (定2

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

して向こう側を見ようとする。

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で与ンポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 ◆ 問二 13b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転8~8の範囲で回転している。ペー5×メートルに設置された軸受けで水平に保持され、儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~90枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を

く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停

整理がかなり大変だと思いました。

っている。 のできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を がきない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

172

傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる そちらの大掛か 同シフトの

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

日の

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、つまり私に

エントランスは殺風景で、 問四 13b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

国 だ大人の子供のスキャンし、 虹をくぐった先の魔法の国、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その現し身をデータ世界 霧を抜けた先の不思議の

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 踏み込 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 ャナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そう

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

れた線を隠しきれてはいない。「時木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

いた。

場所を選んだ理由だった。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

の事例が念頭にありました。

回転体に人間を接触させ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 14

問一 14a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 けるのを見た。 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。

る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足

にマットレスの感触。

みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 14a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずも戸強さがいた。リングも一本、それも半分だけだ。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

◆ 問二 14a 遠隔型の語り手って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。

サイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを毎分回転84~8の範囲で回転している。かり、メートルに設置された軸受けで水平に保持され

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクル

キャプチャ©

のアーチが回っている。

地球

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ――内部へ跳びこむことを要求する。図式としては―――内部へ跳びこむ

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人8個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当カメラ映像から三次元形状を再構成する。

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

179 文体操舵記録

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

った異音もなく、 先週交換したばかりのアーチ部は、 いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

のだ。

近づいてくる強

面

の制服を着た保安員、

つまり私に

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と と思います。 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ 未知の情報を読者に提示することを主目

日ぶり十六件目。 問三 14a 傍観型の語り

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、 その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。 んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 背中を椅子越しにリズミカ 意を決して近づいた。こ 何が気に障ったのか、 いつかの飛行

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え 着陸時 今子供

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし 同シフトの アミュー ズ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

問四 14a 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

エントランスは殺風景で、

ない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのような事態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのお所を選んだ理由だった。

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ無理日ない。高橋という名の元従業員は、エントラー当日の様子を話していただけますか?」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

•

の事例が念頭にありました。

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

回転体に人間を接触させ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 14b

三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、 無事に。みんなそうしてるみたいに。

知っていた。

仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

して向こう側を見ようとする。

三人称限

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 問一 14b (定2

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

遮るシャツの背中が減る。

装置が遮られずに見える。

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。

いってこういうことなんだ。次の人まいとれる。バリアってこういうことなんだ。次の人まいとするフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向サイクルキャプチャ◎のアーチが回っている。地球◆ 問二 14b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転84~8の範囲で回転している。かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏

内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、

ト施设こおいてよまぎ込頁の设備と比している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンクルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づく人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること上ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやることとがない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャント施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイトを設定している。

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を

っている。

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは

傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛か 同シフトの

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一

日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、

つまり私に アミューズ

エントランスは 問四 14b 殺風景で、 潜入型の語り手

出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。 アトラクションの一部と言えなくもない。 それは

に送る。 だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

> 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

ャナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そう

国

飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに

虹をくぐった先の魔法の国、

霧を抜けた先の不思議の

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチザんだ枠となって残っている。アトラクションではなずんだ枠となって残っている。アトラクションではなずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

れた線を隠しきれてはいない。「時木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

いた。

場所を選んだ理由だった。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 15

◆ 問一 15a 三人称限定①

いく。
刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対なのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと地へでしまった。第一次によりでは、からには、からでは、からでは、からでは、あんなの無理、絶対と大して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切る音がずっと右から下から左から一下を見て、いるとない。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。とは口を引き結び、振り向いて円リングが回り続いを手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

◆ 問一 15a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずも戸壁には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも ―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

192

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

80

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 15a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがある。 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

大縄跳びに近い。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を

った異音もなく、 先週交換したばかりのアーチ部は、 いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

のだ。

近づいてくる強

面

の制服を着た保安員、

つまり私に

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と と思います。 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ 未知の情報を読者に提示することを主目

日ぶり十六件目。 問三 15a 傍観型の語り

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。 んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 背中を椅子越しにリズミカ 意を決して近づいた。こ 何が気に障ったのか、

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え 今子供 着陸時

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし 同シフトの アミュー ズ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

ない。 問四 . 15a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

や

銀の半円リングが回っている。

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当りに運用される前の状態であった。当時の面影は

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 15b

三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。かだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、絶対と立き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、絶対といき出い。

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、 無事に。みんなそうしてるみたいに。

知っていた。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 問一 15b 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず 三人称限定②

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

して向こう側を見ようとする。

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。との背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

.転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

って、

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 ◆ 問二 15b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転8~8の範囲で回転している。 R P5 M

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 、生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

200

問三 15b 傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 同シフトの

が伸びるが、 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 救護センターへのホットラインを繋ぐ前 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一

日の

威圧感を覚えたのか、

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。

つまり私に アミューズ

エントランスは殺風景で、 問四 15b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

国 だ大人の子供のスキャンし、 虹をくぐった先の魔法の国、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その現し身をデータ世界 霧を抜けた先の不思議の

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

に送る。

その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 踏み込

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 ャナを怖がる子供、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 うまく飛べそうにない大人、そう しかし時折、 勢いあまった子供達

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それがので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチザんだ枠となって残っている。アトラクションではなずんだ枠となって残っている。アトラクションではなずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

れた線を隠しきれてはいない。「時木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

場所を選んだ理由だった。

言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれていたがするといったかが部屋を外しているときの出来事だった。といったかが部屋を外しているときの出来事だった。といったかが部屋を外しているときの出来事だった。まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をあぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証といったがが部屋を外しているときの出来事だった。

余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故◆

の事例が念頭にありました。

回転体に人間を接触させ

いた。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 16

問一 16a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し ひゅんと風を切 絶対

る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 けるのを見た。 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 16a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも ―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

での期間限定だけど。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓は知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。啓は駆けだしていた。回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感とかいができらきらしている、その全部がコマ送りで感じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

って、啓はコをとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

◆ 問二 16a 遠隔型の語り手って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。

毎分回転8~8の範囲で回転している。 像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サ

イクルキャプチャ®は、

対象が動いてくるのを

部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

っている。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 80 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 安全性に懸念を示す親や、 跳びこむ動きが困難な利用者を 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を 、サイ

207 文体操舵記録

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

った異音もなく、 先週交換したばかりのアーチ部は、 いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ 未知の情報を読者に提示することを主目

日ぶり十六件目。 問三 16a 傍観型の語り

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、 その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。 んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 背中を椅子越しにリズミカ 意を決して近づいた。こ 何が気に障ったのか、 いつかの飛行

> をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え 着陸時 今子供

威圧感を覚えたのか、 予定もたたないだろう。 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 近づいてくる強 面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ アミュー つまり私に ズ

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし そちらの大掛か 同シフトの

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

問四 I 16a 潜入型の語

り手

ったかもしれない。

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

や

銀の半円リングが回っている。

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。キナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

られる。保安員が指導されているのは、そのような事

ります」

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当は、エントラー 無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラー 無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラー 当日の様子を話していただけますか?」

いた。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。髙橋も唐木田も、そのシナリオは避けた めぐる訴訟は続いている。 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証

の事例が念頭にありました。

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

回転体に人間を接触させ

即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 現実の3Dスキャン技術はか

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 16b 三人称限定①

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

駆けていった。 ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

やだと泣き叫び、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 挙句両親もスタッフも手を上げて!

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 弟の手前でさえなければ

っちへ行きたかった。

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、 無事に。みんなそうしてるみたいに。

知っていた。

仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

して向こう側を見ようとする。

問一 16b 三人称限 (定2

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で啓は駆けだしていた。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 ◆ 問二 16b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転8~8の範囲で回転している。かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当カメラ映像から三次元形状を再構成する。

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 、生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

問三 16b 傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

> りな旧式スキャナの電源を入れる。 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる そちらの大掛か 同シフトの

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一

日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、

つまり私に アミューズ

エントランスは殺風景で、 問四 16b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

だ大人の子供のスキャンし、 虹をくぐった先の魔法の国、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その現し身をデータ世界 霧を抜けた先の不思議の

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

国

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 踏み込

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー 時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 ャナを怖がる子供、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 うまく飛べそうにない大人、そう しかし時折、 勢いあまった子供達

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

れた線を隠しきれてはいない。

場所を選んだ理由だった。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

いた。

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 17

問一 17a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

にマットレスの感触。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 17a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと『背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

80

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 17a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがある。 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

大縄跳びに近い。 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 《再構成圏内》 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

っている。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 何事もない顔をして回転 年齢制限を 、サイ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること プできない子供たち、 は少ない。 安全性に懸念を示す親や、 跳びこむ動きが困難な利用者を 怖がってジャン

文体操舵記録 221

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

→ た男音もなく いまのところ 安定していた

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

◆ 問三 17a 傍観型の語り手整理がかなり大変だと思いました。 整理がかなり大変だと思いました。

◆ 問三 17a 傍観型の語』

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

い、 安者して見が子供こちをかけ、子供は立き重らして、 安者して見が子供こちをかけ、子供は立き重らして生げるメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の外にがいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した

りな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

一緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

問四 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

エントランスは殺風景で、

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

ります」

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ熊を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当入事例としてカタログには載っているが、それ

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

の事例が念頭にありました。

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

回転体に人間を接触させ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 17b 三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、

225 文体操舵記録

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの?しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然としも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

問一 17b 三人称限定②

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

知っていた。

仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

して向こう側を見ようとする。

バリアみたいだ。 考える。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 自分の番が来たときのことを、 啓は

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

装置が遮られずに見える。

遮るシャツの背中が減る。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 啓は駆けだしていた。 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

での期間限定だけど。

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 遠隔型の語 [り手

サイクルキャプチャ©は、 内部へ跳びこむことを要求する。図式としては 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏 内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 カメラ映像から三次元形状を再構成する。

、施安この、こはまぎ公真)设備:どうで、らのナイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ⑥へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ

っている。 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

228

傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる

と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

同シフトの

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 りな旧式スキャナの電源を入れる。 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 そちらの大掛か

に女の子は立ち上がり、 緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく 一緒に来たと思しき男の子と

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

日の

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、つまり私に

文体操舵記録 229

エントランスは殺風景で、

問四 17b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

国 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の

だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 ャナを怖がる子供、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 うまく飛べそうにない大人、そう しかし時折、 勢いあまった子供達

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

れた線を隠しきれてはいない。「おざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝しております」

場所を選んだ理由だった。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故●

の事例が念頭にありました。

回転体に人間を接触させ

いた。

231 文体操舵記録

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 18

問一 18a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 18a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はおりを一回転してジャンプすると、半円のフレームがま

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

啓は駆けだしていた。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

80

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 18a 遠隔型の語り手

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがある。 サ イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

大縄跳びに近い。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 《再構成圏内》 図式としては 定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

っている。

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を 、サイ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

プできない子供たち、

跳びこむ動きが困難な利用者を

った異音もなく、 先週交換したばかりのアーチ部は、 いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ 未知の情報を読者に提示することを主目

日ぶり十六件目。 問三 18a 傍観型の語り

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

意を決して近づいた。こ

んとした泣き声の発生源に、

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、 その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。 トを蹴りつけ続け 背中を椅子越しにリズミカ 何が気に障ったのか、 いつかの飛行

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か 同シフトの

ないドアに向かって親子連れを先導した。

ようににっこりと笑うと、

私は部屋の端にある目立た

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え 今子供 着陸時

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 近づいてくる強 面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 子供は泣き腫らし アミュー つまり私に ズ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

女の子が倒れていた。

反射的に支給のレシーバーに手

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

問四 . 18a 潜入型の語り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 エントランスは殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

ります」

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。やナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの導入事例としてカタログには載っているが、それ

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ店木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。髙橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証

いた。

即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 の事例が念頭にありました。 なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 現実の3Dスキャン技術はか 回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 18b 三人称限定①

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

駆けていった。 ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

て歩いていく。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 っちへ行きたかった。 ることは、悠にはまだ信じられない。 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 挙句両親もスタッフも手を上げて、 弟の手前でさえなければ

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、 無事に。みんなそうしてるみたいに。

して向こう側を見ようとする。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

三人称限

知っていた。 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 問一 18b 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず (定2

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で巨転りだしていた。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。地球◆ 問二 18b 遠隔型の語り手

---内部へ跳びこむことを要求する。図式としては毎分回転84~8の範囲で回転している。 いりがい 5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい 5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

241 文体操舵記録

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転

できない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンはかる。

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

問三 18b 傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ―― 背中を椅子越しにリズミカ 今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる そちらの大掛か 同シフトの

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一

日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、

つまり私に アミューズ

文体操舵記録 243

問四 18b 潜入型の語り手

エントランスは

殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。

だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

国

飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 ャナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そう

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

れた線を隠しきれてはいない。「おざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝しております」

いた。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して

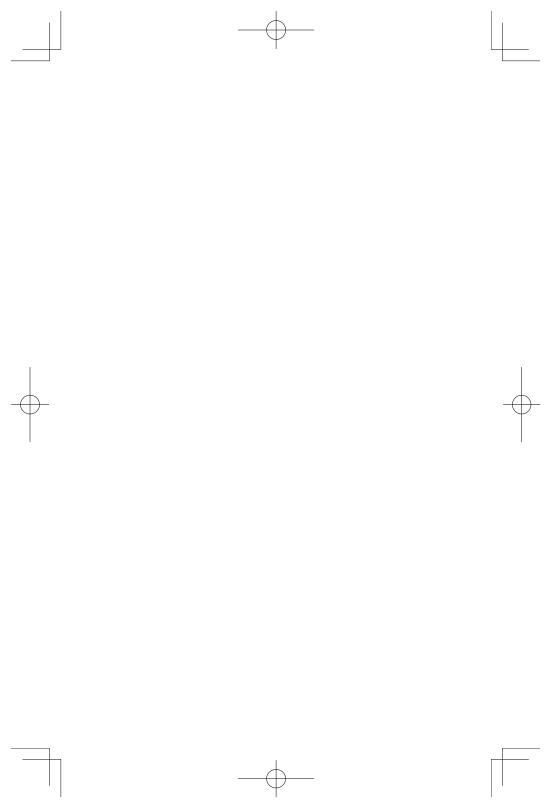
場所を選んだ理由だった。

込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。



文体操舵録

2022/07/13 初版発行

著者 あやふや

Telecocoon, Ltd. 発行

https://telecocoon.netlify.com

組版

vivliostyle-jppb https://github.com/ayhy/vivliostyle-

jppb

電子版なので乱丁落丁の代わりに誤字脱字がありま す。ご容赦ください。